

## トラック 34

昔々、スルタンとその妻がいた。彼らには長い間子供が出来なかった。或る日彼らは治療師の許に行き、解決策を見つけてもらうことにした。

「我々は金はあるが子供がいないのだ」。

治療師は答えた：「私のために雌鳥と雄鶏を探して下さい。それから明日になったら、やるべきことを教えましょう」。

翌日の朝、治療師は彼らに言った：「さあ、本当に子供が欲しいならこの家を離れなさい。あなた方が財産を置いていくかどうか確かめるために、ここにすべての財産を残して引っ越しなさい」。

スルタンは怒って答えた：「お前は狂っている。私の財産すべてをここに捨て置くというのか？ もう一度そんなことを言ったらお前の首を刎ねてやる」。治療師は立ち去り、他の治療師を来させた。彼は言った：「子供を得るのは可能です。鰻と卵を探しに行きなさい。そしてその二つを同じ場所に置き、明日私がそれを見つければ、何をするかお伝えします」。

翌日、スルタンは治療師に卵と鰻を見せた。治療師は言った：「それでは、あなたが持っているものすべてを与え、家を空っぽにする用意ができていますか？ そうすれば子供を得られるでしょう」。スルタンは苛立って治療師を追い返した。

スルタンは、村に住んでいる他の治療師を教えてもらったが、彼なら必ずや子供を得ることが出来るということだった。スルタンは、その治療師が出向くことを望まないで、自分で行かなければならないと言われた。スルタンは治療師を探すのに衛兵を遣わすことを望んだが、治療師は出向かないのでスルタン自身が行くよう勧めた。スルタンは、自分はスルタンであり、出向いてくるのは治療師の方だと反論した。何人もの人が治療師に会いに行ったが、彼はスルタンの前に出頭することを拒み続けた。とうとうスルタンは譲歩して、治療師の許に赴いた。治療師はスルタンに言った：「両の手のひらを見せなさい」。スルタンはそうした。治療師は手のひらを目に当てるよう命じ、スルタンがそうしたところ目が見えなくなった。治療師はスルタンに言った：「心配しなくていい。もしそれが私に出来たのなら、あなたと奥さんに子供を授けられる。但し、あなたは子供を見ることはないだろう」。

数日後、スルタンの妻が急に産気づいて子供を産み、タトゥランガと名付けられた。父親となったスルタンはそれを聞いて涙を流したが、子供を見られないことに苦しんだ。妻は治療師に尋ねた：「子供と一緒にここから今出てもいいでしょうか」。治療師は答えた：「ここから離れたら子供は旅の間生き長らえないだろう。それに私はスルタンを治す術をまだ見つけていない」。スルタンは食い下がり、これで充分なので出発すると言い張った。治療師は彼らに言った：「それでは子供をここに残して行きなさい。私を信じてくれますか?」。スルタンは子供を連れずに出発することを拒み、子供と共に船に乗った。

スルタンは宮殿に戻ったが、依然眼が見えなかった。彼が治療師に会いに戻ると、治療師はスルタンに、子供と一緒に来るように頼み、そうすれば視力を回復するやり方を教えると言った。スルタンは了承して子供と共に戻った。治療師はスルタンに言った：「あなたに針と糸を渡します。それを家に持ち帰って地面に起き、それには触れないように。そして子供はここに置いておきなさい。今夜は子供のことは考えてはいけません」。翌日になって、スルタンは針が柱に、糸が長い綱に変わっているのを見つけた。

スルタンは子供を連れ帰ろうとしたが治療師はそれを拒んで、子供を授からせたのは自分なのに、会えないのだ、と言った。スルタンは治療師に言った：「あなたが私に子供を授けてくれたからには、あなたがこれからはスルタンになり、私がここに残る」。治療師は反駁した：「いや、ここに残るのは私の方だ。あなたがすべての財産をここに持って来なさい」。そこでスルタンは自分の子供を手放さないためにそれを受け入れた。